



目次

1 副会長挨拶	2~3
2 2021・年頭雑感	4
3 新人社会福祉士の紹介	5
4 ベテラン社会福祉士の視点	6~7
5 地区支部からのお知らせ	8~9
6 ブレイクタイム (ナンプレ)	10
事務局からのお知らせ	10

— 会員の動向 (12月31日現在) —

- 総会員数 1,879名
- 入会率 16.53%
- 新入会員数(転入含) 91名(累計)
- 退会員数(転出含) 21名(累計)

発行人 神内 秀之介
発行所 事務局
編集 企画総務委員会
(委員長 東村 智之)

— 会員の皆様へ —

LINE 公式アカウント (旧 LINE@)、公式 Facebook
未登録の方はぜひご登録をお願いします。



LINE公式アカウント(旧LINE@)
([https://line.me/R/ti/p/
KY7nAVv-oW](https://line.me/R/ti/p/KY7nAVv-oW))



公式 Facebook(フェイスブック)
([https://www.facebook.com/
hokkaidocsw/](https://www.facebook.com/hokkaidocsw/))



〒060-0002
札幌市中央区北2条西7丁目かでの 2.7 4階
TEL 011-213-1313 FAX 011-213-1314
mail info@hokkaido-csw.or.jp



ユニバーサルデザイン(UD)の考え方に基づき、
より多くの人に見やすく読みまちがえにくい
デザインの文字を採用しています。

副会長挨拶

公益社団法人 北海道社会福祉士会
副会長 佐藤 雅幸



今期で3期目を迎えました。1期目は現相談役の竹田氏のもとで企画総務委員会担当理事として「実践研究集会（全道大会）」の立ち上げ、機関紙「かわら版」を担当させていただきました。2期目は同委員会と併せて障がい者等地域生活支援委員会を担当させていただきました。また、事務局長不在となった後、予算編成にも関わらせていただきました。

そして、3期目の現在、副会長の所管として、企画総務、障がい者等地域生活支援、地域包括支援センター支援委員会と、子ども未来部会に関わらせていただいたところでしたが、コロナ禍の中活動が一変して各委員会担当理事はじめ、委員のみなさま、事務局長はじめ事務局員のみなさまには、今までにないくらい研修会の開催等会員の皆様に会の活動参加についてご尽力いただいていることに感謝しております。

1期目に立候補した時は、父が亡くなり通夜当日に郵便局へ立候補届を出しに行ったのを思い出します。会の活動には距離は関係ないと意気込んで片道6時間かけて札幌へ行っていましたが、今は、webで自宅から皆さんの顔を見られる環境の変化にやっと対応できているかと感じています。

会員として当初から一緒に活動してきた地区支部の役員の皆様に感謝申し上げます、会務にあたらせていただければと思います。

公益社団法人 北海道社会福祉士会
副会長 村上 敦哉



北海道社会福祉士会会員のみなさま、はじめまして。現在、副会長をつとめさせていただきます村上敦哉（むらかみのぶちか）と申します。

現在担当している委員会は、生涯研修委員会と司法分野との連携特別委員会になります。

副会長として担当しておりますが、いずれの委員会も委員のみなさんや理事のみなさんが率先して活動に取り組まれており、副会長としては見守る程度のこと

しかできておらず、非常に心苦しい限りです。ただ、どちらの委員会についても思い入れはあり、生涯研修委員会はこれからを担う社会福祉士の人材育成という点で非常に重要な委員会だと思いますし、司法分野との連携特別委員会は、人権擁護を担えるのは社会福祉士に他ならないと考えており、そういった人材育成を行う上で非常に重要な委員会だと認識しております。

任期は 2021年度の総会までとなっており、この新型コロナウイルス発生下で十分な取り組みはできていないことが非常に悔やまれますが、残りわずかの任期中に与えられた職責を全うするとともに、神内会長、佐藤副会長、平田副会長と協力して会の運営に努めて参りたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひします。

公益社団法人 北海道社会福祉士会
副会長 平田 淳



兵庫県西宮市に生まれ、大阪府吹田市で育ちました。

大阪から旭川に移住して15年目を迎えます。2011年に社会福祉士資格を取得、当会に入会しました。2012年4月から社会福祉士事務所たりたりとして独立開業しました（旧研修制度上で、2023年までの経過措置）。成年後見等の受任を専業としています。開業して8年が過ぎ、未成年後見や任意後見監督含め、通算して52名の方々の受任をいたしました。講師として、権利擁護と成年後見制度について講義する機会もいただいておりますが、あくまでも本業は後見人等を受任することです。本人の意向を丁寧に確認して、それを代弁するという仕事にとってもやりがいを感じています。

副会長として担当している委員会は、ぱあとなあ北海道運営委員会、生活困難者支援委員会、災害対策委員会の3つです。このうち、生活困難者支援委員会にはその発足当初から縁あって関わってきました。旭川市内で毎月開催している「困りごとなんでも相談会」や、ハンセン病問題、自殺対策への取り組みを通じて、自分が社会福祉士として視野角を拡げ、専門バカの^{かんせい}陥穽に^{はま}嵌らずに済んでいるのだとしたら、この委員会の活動に依るところが大きいのだと思います。会としてハンセン病問題に継続して関わっていることを誇りに感じますし、自らもライフワークとしていくつもりです。一人でも多くの同志が増えればと切に願ひます。引き続き当会の活動にご協力賜りますようよろしくお願ひいたします。

【2021・年頭雑感】

公益社団法人 北海道社会福祉士会
相談役 清野 光彦



2021年が明けた。昨年、COVID-19に世界中がやられた一年だった。現在もまだ収まってはいない。おそらく、この後、この「禍」以前に私たちが構築してきた様々なシステムが一変してしまうだろう。いや、せざるを得なくなると私は思っている。それを予感させる出来事を社会福祉士会の会務から探してみたい。

2019年は、相談役として札幌に出向いた回数は片手に余る。北海道社会福祉士会や日本社会福祉士会の役員をやらせていただいていた頃は、毎月、毎週のようにさんざん公共交通機関を利用して移動していたのである。今は、会議予定時間を確認し、パソコンの前に座って Zoom のアプリをクリックするだけでほとんどのことが解決してしまう。確かに、言葉にできない違和感はあるが、体はメチャクチャ楽になった。

また、事は会議のあり様だけに留まらず、研修の形態にも影響を与えている。日本の主催する研修の形態が、あれだけ対面で行う集合研修に拘っていたのに、今は全て Zoom によるオンラインに代わり、都道府県社会福祉士会の研修や会務に至っても言わずもがなである。

私は、かつて発言の機会を頂いた数多くの日本社会福祉士会の会議等の場において、北海道の地理的な不利益を訴え続けてきた。不利益の中身をもう少し具体的に言えば「時間」と「コスト」についてである。

東京を中心とした中央集権的な考え方は、先の 2 点について地方には必要以上に不利益をもたらしてきた。これは、地方に暮らさなければわからない現実である。また、この構図は、道内においても札幌を中心にそのまま当てはめられる。

確かに COVID-19 は、私たちに力づくで行動変容を迫っているように感じる。人が何千回何万回と言葉にして訴えても改善されなかったものが、言葉を持たない目に見えないウイルスにいと簡単に押し切られているのだ。

しかし、たとえそれが COVID-19 によってもたらされたにしても、実際に「不利益」が解消されるとしたらこれを機会に既存のシステムは改めればよい。外圧に屈する形の行動変容であっても、見方を変えればチャンスにすることは可能である。

期せずしてもたらされている「禍」ではあるが、行動を制限され「静」の時間が長い今だからこそ、立ち止まって様々な既存の価値を見直してみることも必要ではないだろうか。

【新人社会福祉士の紹介】①

氏名：椎名 成（45歳）

所属：十勝地区支部
帯広市議会
（前職株式会社
ツクイ管理者）



大学時代に生き方に迷い、親と一緒に暮らすことができない子どもたちの学習支援、重度肢体不自由の子どもたちと活動する2つのボランティア活動を始めました。それらが私の原点となり、結果、通信で学びながら社会福祉士を取得、社会福祉士というポジションが本当に好きで、障害者福祉、高齢者福祉など、様々な仕事をさせて頂いて参りました。その後ご縁があり、現在は市議会議員の仕事させて頂いております。

「これからは、君のような経験の人も必要だ」と言われてやってみると、市民相談には、児童虐待のからむ話、いわゆる8050、引きこもりの相談、精神的な病を持ち地域で暮らす方の自殺防止の話、障害者虐待の話、など、ソーシャルワーク支援を必要とする内容が沢山ございました。また、一般質問では、断らない相談窓口について、重層的相談支援体制について、体制整備事業の課題など取り上げて、様々な提案させて頂き、現場経験を生かし行政として関わっていただけることにやりがいを感じております。

これからもしっかりと学び、そして益々地域のためにがんばっていきたく思っております。皆様には、福祉連携で関わりを持たせて頂くと共に、何卒ご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

【新人社会福祉士の紹介】②

氏名：金子 勇大（30歳）

所属：釧根地区支部
社会福祉法人
北海道社会福祉事業団
根室圏域障がい者総合相談支援センター「あくせす根室」



秋田の実家を離れ、札幌にある大学卒業後、社会福祉士の受験資格を持ちながらもなかなか合格せず…。約5年の歳月を経てやっとの思いで、2019年に社会福祉士を取得することができました。仕事をしながらの受験勉強は大変だった記憶しかなかったため、合格した時はとても嬉しかったと今でも覚えています。両親や職場の方々に迷惑を掛けていたので、ついに良い報告ができたと思えました。

元々、福祉の仕事に就きたいという気持ちがあり、北海道社会福祉事業団に入職し、私自身未踏の地だった道東「中標津町」に配属されることになりました。社会人として右も左も分からないまま、障がいを持った方の相談員として働き始め、早くも丸8年が経とうとしています。こうして働き続けられたのも、同僚や上司、家族、地域の関係機関の皆様などの支えもあったからこそだと思います。

相談員としてはまだまだ未熟者ではありますが、常に利用者様主体で意思を尊重し、伴走・寄り添いながら、その方の力・地域の力を活用しながら今後も関わり続けていきたいと思っております。

社会福祉士会の皆様とは、どこかでお会いする機会があると思っておりますので、その時はどうぞよろしくお願い致します。

【ベテラン社会福祉士の視点】①

「学び続ける」

氏名：斎藤 規和

所属：道央地区支部

株式会社シムス

株式会社ラダーサポート



私は、社会人になって15年目に一念発起して社会福祉士の受験勉強を始めました。勉強の中で一番興味を持ったのは、実は、社会事業を興した人々の業績や思想・ひととなりを知ることでした。賀川豊彦※などは特に興味深く、強いインパクトを受けたのを覚えています。

また、受験勉強グループで出会った山崎加代子氏とはその後、盟友として20年以上一緒に高齢者福祉分野の事業に関わることになりました。訪問介護、居宅支援、サ高住、看護小規模多機能…と、一緒に立ち上げてきました。

ここ数年の私の仕事・活動は、障がい者の就労支援、障がい児の通所支援、引きこもりの若者支援、地域の自立支援協議会でのネットワーク作りや研修企画などです。

重度身体障がい者や特別支援学校卒業生の雇用から始まった就労支援も18年たった今では、精神障がい当事者でもある社会福祉士や精神保健福祉士が結集して自分たちで就労支援事業所（中間的就労の提供）を運営するまでになりました。私自身も就労支援について学び2号ジョブコーチを取得しました。

精神障がいのスタッフは皆、通院し服薬しギリギリのところまで仕事をしています。彼らを見ていると「障がいは個性です」と分かったようなことを言っはいけないと

思うし、慰めや同情ではなく、カンパニーのかけがえのない一員としてリスペクトする、ということを常に心掛けています。

2012年に開設した児童デイでは児童家庭支援ソーシャルワークをどう現場に落とし込むかが大きな課題ですが、児童デイが子どもの虐待を未然に防ぐ役割を果たしているという実感はあります。乳児院や相談支援の社会福祉士と地域自立支援協議会子ども部会を設立して毎年3～4回、研修会を開催しています。今年から区の要対協（要保護児童対策地域協議会）にも参加することになり、地域での子ども分野の多機関・多職種の連携が益々求められています。

引きこもりの若者支援は、ユースワーカーの方々と連携して中間的就労プログラムを受け持っていますが、当事者の視点に立った支援制度が無い現状にはもどかしさを感じています。

かつて社会事業を興した先駆者に啓発され、その真似事をしてきたような私の人生ですが、今も若い専門職の方々と議論し、学び続けています。全く嫌なオヤジです。

※賀川 豊彦（かがわ とよひこ）

大正・昭和期のキリスト教社会運動家、社会改良家。戦前日本の労働運動、農民運動、無産政党運動、生活協同組合運動、協同組合保険運動において、重要な役割を担った人物。日本農民組合創設者。

【ベテラン社会福祉士の視点】②

ソーシャルアクションとかけがえのない仲間

氏名：武田 学（48歳）

所属：オホーツク地区支部

医療法人社団煌生会

介護老人保健施設さくら

在宅ケア部相談支援課

しいて言えばソーシャルアクションかと思える活動を報告します。当方が参画している北見市の医療・介護連携の活動内容です。

話は平成19年に遡ります。当時、保健所に「北網地域リハビリテーション推進会議」が置かれ、地域リハの啓蒙や推進等を行政機関及び医療・介護専門職能団体で検討しておりました。その事業で、委員だけでなく地域の医療・介護関係者である有志が集う、「地域課題を考えるタウンミーティング」と題した研修会が開催され、そこで地域課題の意見を抽出しました。1.医療依存度の高い人の受け入れ先が少ない、2.相談事があっても病院・介護機関それぞれの窓口がわからない、3.たくさんある事業所の役割がわからない、と意見の多かった上位課題3つにしばり、課題解決を推進会議の活動内容としました。

その後の事業内容として、医療・介護各分野の9事業所がプレゼンする「急性期から在宅の流れを考えるリレー式PR大会」、入退院時連絡に関するルールがなく、いつの間にか退院を防止するための基礎資料とする「入退院連絡調査」、入退院連絡に関する地域ルール策定のための会議開催など、10年以上に渡り活動を実施してまいりま



※かけがえのない仲間（右一番奥が武田氏）

した。特に入退院連絡に関する地域ルールについては、初の調査年度は入院時にケアマネから病医院へ、退院時に病医院からケアマネジャーへの連絡率が50%程度だったのが、ルールを導入した平成28年以降どちらも連絡率が80%へ向上したのです。更に情報提供のほとんどを書面上で行ったことが、後の介護報酬改定で何ら苦でなく受け入れることができたのではと思います。

こういった活動を続けることで、入退院連絡のルールが標準化されるとともに、各事業所の相談窓口が明確化され、事業所の役割についても理解の幅が広がっていきました。ゆえに医療依存度の高い方の受け入れが少しでも増えていったのではと思われます。

そして、この活動を通したくさんの他事業所の仲間が増えました。正直言うと手弁当ですから途中で面倒だなあ、やめたって迷惑かけないよなあと思ったこともありましたが、その仲間がいたから続けられたのは間違いないでしょう。皆さんも巡り合えるといいですね。

【各地区支部からのお知らせ】

【道央地区支部】

「権利擁護・社会福祉セミナー」を開催します。

【日 時】

社会福祉：3月13日（土）10時～12時

権利擁護：3月20日（土）10時～12時

【会 場】

札幌市社会福祉総合センター 4階 視聴覚室

（札幌市中央区大通西19丁目）

【内 容】社会福祉：「司法福祉における社会福祉士の役割－北海道地域生活定着支援札幌センターの取り組みを中心に－」

講師 北海道地域生活定着支援札幌センター所長 石井 隆 氏

権利擁護：「児童の権利擁護を考える」

講師 北海道大学大学院教育学研究院教授 松本 伊智郎 氏

【参加費】1セミナーにつき、会員・学生500円。非会員1,000円（当日徴収）

【定 員】各セミナー30名

【締 切】3月5日（金）までにFAX:011-261-4144までお申込下さい。

【道北地区支部】

精神保健福祉士協会・介護福祉士会と共催で、社会福祉士会としては上川中南部ブロック活動として「ワーカーズサロン」を年数回実施しているところですが、昨年12月2日（水）に、ワーカーズサロンとしては初めて、Zoomを使用しオンラインで「コロナと向き合う～多職種における取り組み～」をテーマに実施し、各会から合計20名の参加がありました。また、同9月12日（土）には、ぱあ

となあの研修もオンラインにて実施しています。新型コロナウイルス感染症の収束が見通せず、研修が思うように実施できていない状況がありますが、実施に向けて可能なところから取り組んでいきたいと考えています。

【日胆地区支部】

現在の状況下で集合研修が難しい中、10月23日（金）に「地域包括支援センター自己評価研修会」、11月26日（木）に「行政職員・地域包括支援センター等虐待対応支援研修」を開催しました。

特に虐待対応支援研修会では、事例対応を元に横断的な支援体制づくりということで様々な機関に呼び掛けし、当日は40名前後の人数に参加いただきました。人数が多く出席する中ではアクリル板の設置など、感染症対策に十分務め演習を行いました。演習では相談場面を設定したグループワークを行い、改めて機関の役割の違いや確認などを行うことができるなど参加者にとって有意義な時間となりました。

【十勝地区支部】

他地区支部と同様、上半期はコロナ渦での活動を模索。帯広市を除く管内4ブロックで小人数でのZoom学習会兼交流会の準備をした矢先の11月、飲食店や行政機関でのクラスターが発生、止む無く中止しました。12月に入って以降は、医療機関や高齢者施設等でもクラスターが発生、管内の会員は一層の緊張感の中日々業務を行っています。

12月26日（土）は、Zoomを用いて、2021年度地区支部事業計画及び予算に関する意見交換会を開催。Zoomに不慣れな会員が多い

状況もあってか、例年より少ない参加者数ではありましたが、道理事からの活動報告やZoomの浸透状況等、複数の会員からの意見や情報提供がありました。

地区支部の幹事も会議や意見交換会等でのZoom経験を経て、使用方法等にだいぶ自信が持てるようになってきたところです。

【オホーツク地区支部】

9月26日（土）にZoomを使用するのオンライン会員学習会を開催しました。地区支部の藤井康成事務局長より「コロナ禍の中で思うこと～対応と課題を私感で～」を講演し、参加者13名（講師含む）での意見交換を行いました。所属している法人の施設で新型コロナウイルスのクラスターを経験した藤井事務局長より、対応における他機関との「つながり」の大切さをお話し頂き、意見交換では交流が難しくなっている現状でどのように「つながる」かが話題に挙がりました。10月の地区支部役員会にて今年度の研修計画が話し合われましたが、新型コロナウイルス感染拡大により開催を見合わせている状況です。今後も学びや意見交換の場を発信して参りたいと考えていますので、地区支部会員の皆様には本年もご協力をお願いいたします。

【釧根地区支部】

新型コロナウイルスの影響により大きく活動の見直しをすることになりました。

全体会や学習会はオンラインで実施しています。直接顔を会わせられないのは寂しいですが遠方に在住している会員は気軽に参加することができるメリットもあると感じ

ています。6月の「ハンセン病問題から学ぶこと」では東京の講師に。10月の「弁護士と福祉職との連携」では弁護士を講師に実施しました。また、例年7月に実施していた「なんでも相談会」も既存の相談機関（職能団体）を広く周知することを目的として、各団体のポスターやリーフレット等をイオン釧路店に設置する周知イベントとして4日間実施しています。

まだまだ新しい生活スタイルでの活動は手探りですがいろいろと工夫をしていきたいと考えています。

【道南地区支部】

新型コロナウイルスの影響により、例年通りに開催を予定していた、社会福祉セミナー、権利擁護セミナー、ソーシャルワーカー3団体合同研修会の中止に加え、奇数月開催の定例学習会、3か月毎に函館弁護士会と共催していた司法連携に関する学習会や成年後見制度事例検討会も中止せざるを得ず、活動が停滞した状況が続きました。こうした状況下において、地区支部ではZoom活用によるオンライン役員会の開催、支部会員に情報発信するため今年度2号目となる支部通信の発行等の取り組みを行っています。

1月からは、3密を避けるため人数制限を設け、感染防止マニュアルに従った対面式での定例学習会を再開します。さらに、今後はZoomを活用したオンラインでの研修会を開催できるよう準備しているところです。



【Break time ～ナンプレ①～】

No.56 号で最終回となった市町村クロスワードパズルに替わって、No.57 号からナンプレ（ナンバープレース、数独）をはじめます。空いているマスに1～9の数字を埋め、A～Cに入る数字から、福祉に関係する年号を教えてください。

また、今回から「答え」を応募していただくと、正解した会員の中から3名の方に景品をプレゼントします。景品の中身はお楽しみ。皆さまのご応募をお待ちしています。

	7			B	6			
	3				1			
	8	6		5	3	1	4	7
			1	4		6	9	8
1			6	9	8			5
6	9	8		2	5	C		
3	2	5	7	1		8	6	
	A		8				3	
			5				7	

【ルール】

- ・タテ、ヨコ、3×3の小さなマス内に1～9の数字が入ります。
- ・タテ1列、ヨコ1列には、同じ数字が入りません。
- ・3×3の小さなマスにも同じ数字は入りません。

【答え】

A 9 B C 年

ヒント

福祉の資格に関する年号です。

【応募方法】

件名に「ナンプレ懸賞について」、本文に①氏名 ②会員番号 ③答え ④本誌の感想等を入力し、2月28日（日）までに下記メールアドレスへ応募してください。

抽選で3名様に、3千円相当の景品が当たります。解答及び当選者は次号に掲載します。
(懸賞応募先メールアドレス info@hokkaido-csw.or.jp)

【前号の答え】 = 「ボッチャ」 (ほろかない、あつま、よいち、おしゃまんべ)

※ボッチャは、脳性麻痺などにより運動能力に障がいがある競技者向けに考案された障がい者スポーツの一つ。第8回（1988年）夏季パラリンピックから正式競技となる。

【事務局からのお知らせ】

昨年の10月より事務局で勤務させていただいています。十勝・帯広から来ました本郷美香です。

前職は、教育委員会で勤務していました。福祉のお仕事は初めてですが、一日も早くお仕事に慣れて、皆様のお役に立てればと思っています。研修会で皆様に会える日を楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。

